

令和7年度

教職課程

自己点検・評価報告書

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学

令和8年6月

九州栄養福祉大学 教職課程認定学部・学科一覧

- ・食物栄養学部食物栄養学科（栄養教諭一種免許状）
- ・こども教育学部こども教育学科（幼稚園教諭一種免許状、
小学校教諭一種免許状、特別支援学校一種免許状）

東筑紫短期大学 教職課程認定学科一覧

- ・保育学科（幼稚園教諭二種免許状）
- ・食物栄養学科（栄養教諭二種免許状）

大学としての全体評価

教職課程を設置する九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学の母体は学校法人東筑紫学園である。本学園は、その礎となった昭和 11 年 3 月の筑紫洋裁女学院創立より数えすでに八十有余年を経過している。

この間、戦争や学制改革など幾多の変動があったが、まず女学院が女子中学となり、続いて高等学校を設置、昭和 25 年 4 月、現行制度下における大学・短大の直接の祖となる東筑紫短期大学を開設、同 29 年 4 月保育学科を設置、以来建学の精神である「筑紫の心」を掲げ、幼稚園教諭のみならず、幼稚園・中学校・高等学校の児童・生徒を含めた子どもの育成という地域活力の基盤となる役割を担ってきた。

また、栄養教諭制度が施行された平成 17 年度以降は大学・短大ともに同教職課程を設置し、食を通じた地域貢献を実践している。令和 7 年 4 月にはますます変化を早める時代においてこれらからの地域を担うこどもたちのよき伴走者となり得る人材育成を目的に、九州栄養福祉大学にこども教育学部こども教育学科を開設。

短大設置以来現在に至るまで大学を併せおよそ 3 万 2,000 人以上が巣立ち、いわゆる教職のみならず各界で地域に欠かせない人材として活動している。

さて、教育職員免許法等の改正に伴い、令和 4 年度以降、教職課程において自己点検並びに評価を要することとなった。今回の自己点検・評価では本学が積み重ねてきた教職課程の営みを再確認すると同時に、society5.0 に代表されるような時代の変化を受け、これから求められる教員育成への対応が課題として浮き彫りになった。今後も地域有為の教員養成課程たり得るよう、九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学教職課程のさらなる充実を図っていきたい。

九州栄養福祉大学
東筑紫短期大学

学長 室井 廣一

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	5
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	5
	基準項目 1－1 教職課程教育の目的・目標の共有	5
	基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫	13
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	18
	基準項目 2－1 教職を担うべき 適切な人材（学生）の確保・育成	18
	基準項目 2－2 教職へのキャリア支援	22
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	27
	基準項目 3－1 教職課程教育カリキュラムの編成・実施	27
	基準項目 3－2 実践的指導力育成と地域との連携	34
III	総合評価	40
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	41

I 教職課程の現況及び特色

1. 現況

- (1) 大学名：九州栄養福祉大学、東筑紫短期大学
 (2) 所在地：福岡県北九州市小倉北区下到津五丁目 1 番 1 号
 (3) 教職課程の履修者数及び教員数

①教職課程の履修者数

九州栄養福祉大学 課程等（通学・通信・大学院）

令和 8 年度（令和 8 年 5 月 1 日現在）

学部	学科名	免許種	教職課程履修者数				合計
			1 年	2 年	3 年	4 年	
食物栄養学部	食物栄養学科	栄一種	35	18	15	12	80
こども教育学部	こども教育学科	幼一種 小一種 特支一種	56	25	—	—	81

東筑紫短期大学 課程等（通学・通信）

令和 8 年度（令和 8 年 5 月 1 日現在）

学部	学科名	免許種	教職課程履修者数		合計
			1 年	2 年	
	保育学科	幼二種	78	83	161
	食物栄養学科	栄二種	17	6	23

②教員数（教員養成課程担当）

九州栄養福祉大学

	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	12	1	2	0	6
備考：「その他」は助手					

東筑紫短期大学

	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	6	4	1	1	5
備考：「その他」は実習助手・副手					

(4) 卒業者の状況

九州栄養福祉大学 課程等 (通学・通信・大学院)

令和7年度卒業生 (令和8年5月1日現在)

教科	免許種	就職先状況											
		認定こども園		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校	
		正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他
栄一種	栄一種					—	4	—	—				
幼一種	幼一種	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
小一種	小一種	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
特支一種	特支一種	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

東筑紫短期大学 課程等 (通学・通信)

令和7年度卒業生 (令和8年5月1日現在)

教科	免許種	就職先状況											
		認定こども園		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校	
		正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他
幼二種	幼二種	10	1	27	—								
栄二種	栄二種					—	1	—	—				

2. 特色

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学の教職課程では下記の内容・体制及び各学部学科における教職課程指導方針をもって教員免許状取得の指導にあたっている。

1. 教職課程の特色

- 1) 「教職課程履修の手引き」による指導
- 2) 「教職履修カルテ」による個別指導 (面談指導) 等
- 3) 「教育実習実施要項」による指導 (教育実習オリエンテーション等)
- 4) 実習協力校への連絡、訪問、授業観察等による教育実習指導

2. 教員養成に係る組織体制

九州栄養福祉大学並びに東筑紫短期大学では教職指導体制を確立し、教員養成の目標を達成するための教職課程委員会を設置している。

委員長：学長補佐

九州栄養福祉大学食物栄養学部、こども教育学部の教職課程担当者

東筑紫短期大学保育学科・食物栄養学科の各学科長、両学科の教職課程担当者

両大学の教務部長、教務課長、教務課員等

```
graph LR; JSU_Faculty[九州栄養福祉大学 教授会] --- JSU_Council[九州栄養福祉大学 教務委員会]; JSU_Faculty --- JSU_Committee[教職課程委員会]; JSU_Council --- JSU_Department1[食物栄養学科 学科会議]; JSU_Council --- JSU_Department2[こども教育学科 学科会議]; TSU_Faculty[東筑紫短期大学 教授会] --- TSU_Council[東筑紫短期大学 教務委員会]; JSU_Committee --- TSU_Council; TSU_Council --- TSU_Department3[保育学科 学科会議]; TSU_Council --- TSU_Department4[食物栄養学科 学科会議];
```

The diagram illustrates the organizational structure of two universities, Kyushu Sangyo University (九州栄養福祉大学) and Tokai University (東筑紫短期大学). It shows the hierarchy from faculties and committees down to specific departments and their respective meetings.

- Kyushu Sangyo University (九州栄養福祉大学):**
 - Faculty (教授会):** Connected to the Academic Council and the Curriculum Committee.
 - Academic Council (教務委員会):** Connected to the Faculty and the Curriculum Committee. It oversees the Department of Food and Nutrition (食物栄養学科) and the Department of Child Education (こども教育学科).
 - Curriculum Committee (教職課程委員会):** Connected to the Faculty and the Academic Council. It oversees the Department of Child Education (こども教育学科) and the Department of Child Welfare (こども福祉学科).
- Tokai University (東筑紫短期大学):**
 - Faculty (教授会):** Connected to the Academic Council.
 - Academic Council (教務委員会):** Connected to the Faculty and the Curriculum Committee. It oversees the Department of Child Welfare (こども福祉学科) and the Department of Food and Nutrition (食物栄養学科).

- 1) 教職課程の運営方針に関すること。
- 2) 教職課程の編成、講義および教育実習に関すること。
- 3) 教職実践演習の授業評価、教員免許状の授与の可否に関すること。
- 4) 履修カルテに関すること。
- 5) その他教職課程に関すること。
- 6) 教務委員会と密接に連絡、調整、協議を行い、教授会を支援すること。

食物栄養学部では、平成 16 年度に栄養教諭制度が創設されたことから平成 17 年（2005 年）4 月より食物栄養学科において栄養教諭一種免許状取得のための教職課程を開設している。

栄養教諭の一種免許状を取得するには基礎資格として学士の学位を有すること、かつ管理栄養士の免許を有すること、または管理栄養士養成施設の課程を修了し、栄養士の免許を有するとともに栄養に係る教科に関する科目、教職に関する科目の全単位を修得し、「教員として最小限必要な資質能力を持つ者」として認定される必要がある。本学では、建学

の精神に基づく「食医・食の番人」として、社会に不可欠な人材の養成という教育理念を掲げている。このような理念を踏まえ、栄養教諭としての職責や義務を自覚し、教育愛や使命感を有する教員の養成を目指している。

目指す教員像

- 1) 教職に対する強い情熱（教師の仕事に対する使命感や誇り、子どもに対する愛情や責任感など）。
- 2) 教育の専門家としての確かな力量（子ども理解力、児童・生徒指導力、集団指導力、学級づくりの力、学習指導・授業づくりの力、教材解釈の力など）。
- 3) 総合的な人間力（豊かな人間性や社会性、常識と教養、礼儀作法をはじめ対人関係能力、コミュニケーション能力などの人格的資質、教職員全体と同僚として協力していくこと）。

・九州栄養福祉大学こども教育学部こども教育学科（以下、こども教育学部）

令和7年4月から開設したこども教育学部では、小学校教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格を取得できる。

こども教育学部は建学の精神「筑紫の心」「勇氣、親和、愛、知性」に基づく教育を小学校や特別支援学校、幼稚園、認定こども園、保育園の教員になることを目指す学生一人ひとりに行き、「筑紫の心」をもった教員の育成に努めたい。具体的には、何事にも好奇心をもって主体的に取り組むこどもを育てる教員（勇氣）、友達と協力してより良い社会を創ろうとするこどもを育てる教員（親和）、こども一人ひとりの個性や可能性を信じ、深い慈しみの心でこどもを育てる教員（愛）、新しい時代を逞しく生き抜く知識、技能を身に付けたこどもを育てる教員（知性）の育成である。このような教員は、やがて、自分に関わることになるこどもたちに「筑紫の心」を育てていくことになると思う。

・東筑紫短期大学保育学科（以下、保育学科）

保育学科の教職課程では、幼稚園教諭二種免許状を取得することができる。幼稚園教諭は、幼児の可能性を開き、幼児の人格形成の基礎づくりに関わる夢と希望あふれる創造的な仕事である。幼稚園教諭の養成にあたっては、本学の建学の精神「筑紫の心」を基礎とし、豊かな人格の完成に努め、広い視野から社会に対応し得る保育者の育成を教育目標としている。本学科に所属している学生全員が幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格のダブルライセンス取得を目標として学業に励んでいる。また、本学科では1年次より附属幼稚園にて直接園児と関わることでより実践的に学ぶことができ、就職後すぐに活躍できる人材の育成に取り組んでいる。

・東筑紫短期大学食物栄養学科（以下、食物栄養学科）

食物栄養学科の教職課程では、栄養教諭二種免許状の取得することができる。栄養教諭は栄養士免許を基盤として教員としての資質を併せ持ち、小中学校等における学校給食の管理と食に関する指導を職務として、学校における食育の推進を中核的に担う教員である。栄養教諭養成に当たっては、本学の建学の精神である勇気・親和・愛・知性が融合した「筑紫の心」に基づき、人間性のバランスのとれた教員育成を目指しており、本学科に在籍する学生のうち約 1/4 程度が栄養教諭二種免許取得を目標として学業に励んでいる。また、本学は九州栄養福祉大学食物栄養学部への編入制度を設けており、毎年、一定数の学生が本学科で栄養教諭二種免許状を取得後、九州栄養福祉大学に編入して栄養教諭一種免許状を取得していることから、栄養教諭一種免許の取得を見据えた指導及び支援も行っている。

Ⅱ 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1－1 教職課程教育の目的・目標の共有

（1）食物栄養学部

〔現状〕

近年、食生活の改善や食の安全、食料自給率の向上が国民的課題として取り上げられ、学校教育における食育の重要性が高まり、2005 年の食育基本法の中で栄養教諭という新しい職能が誕生した。

本学では、勇気・親和・愛・知性という 4 つの心を大切にした建学の精神に基づき「食医・食の番人」の育成を目指していることから、2005 年の制度開始と同時に栄養教諭の養成に取り組み、多くの栄養教諭を輩出している。

本学が目指す栄養教諭像は次の通りである。

- 1) 学校給食の管理と児童・生徒への食に関する指導を一元的に行う。
- 2) 管理栄養士と教諭という資質を生かして、児童・生徒と触れ合う。
- 3) 食に関する指導において、管理栄養士の専門性を十分に発揮する。
- 4) 教職員、保護者、地域の人々との連携、協力を図るためのコミュニケーション能力を身に付けている。
- 5) 「生きた教材」である学校給食を通して児童・生徒の生きる力を育む。

これら栄養教諭の重要性やめざす教師像は、「教職課程履修の手引き」に掲載するとともに、新入生オリエンテーションや保護者説明会において周知を図っている。また、学科会

議においても逐次、教職課程の進捗状況や達成状況を報告して、周りの教職員と情報の共有を行っている。

〔優れた取組〕

食物栄養学部では「筑紫の心」としてすべての学生に勇気・親和・愛・知性を身に付けさせることを目指し、入学直後から様々な場面で指導しているため、学生の心に深く浸透している。教師として不可欠の資質であるため、教職課程を履修する学生は専門性と合わせて教師に求められる基本的な力を身に付けることができている。

また 20 年近い教職課程実践の積み重ねや、小中学校における実務経験を有する教授陣の指導により、目指す栄養教諭像にそった学生の育成が可能となっている。

〔改善の方向性・課題〕

近年、我が国でも子どもの貧困が注目されている。家庭の経済的な状況は児童・生徒の食生活や身体状況に顕著に現れることから、栄養教諭が察知し関わる事例も増えている。

このような職責を担うためには、社会の変化を敏感に感じ取り、子ども達に温かい視線を注ぐ教師でなければならない。

一方、学生はリアルな実体験が減り、年々幼くなっていると言われる。そこで、児童生徒の実態を丁寧に伝え、ケース・スタディーやロールプレイなどの手法を取り入れながら、しっかりと課題に取り組める力を育てることが必要である。

<根拠となる資料>（以下、根拠資料に関しては特に断りない限り令和7年度分を指す）

学生便覧

本学ホームページ

シラバス

教職課程履修の手引き

栄養教育実習要領

（2）こども教育学部

〔現状〕

こども教育学部は、小学校教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格の取得に挑戦できるので、教育者の養成を目指した3つのポリシーになっている。本学部の3つのポリシーは以下の通りである。

◆アドミッション・ポリシー

本学部（学科）では、小学校教諭、特別支援学校教諭、幼稚園教諭、保育士等、多様な教育分野における専門的知識と技術を持った教育者を養成するために、以下に掲げる人材を求める。

1. 建学の精神（勇気・親和・愛・知性を基盤にした人格教育）に賛同する人。
2. 高等学校までに学習した全ての教科において、基礎学力を身につけている人。

3. 教育者になろうとする強い意志を持ち、積極的に学び、思考力・判断力・表現力を身につけようと努力する人（主体的意志力・思考力・判断力・表現力）。
4. 豊かな感性・受容力・コミュニケーション能力を養い、地域を取り巻く教育に関心を持ち、こどもの健やかな成長を支援しようとする人（協調性）。

◆カリキュラム・ポリシー

本学部（学科）では、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力・技能等を身に付けさせるために、以下のような教育内容と教育方法に基づき、教育に対する基礎、教育に関する専門、共生社会における教養および自ら探究する学びを体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を実施する。

1. 1年次には、主としてこどもの教育に必要なルールや法則について学ぶ基礎的科目を履修する。
2. 2年次には、主として教育や保育に関する専門的な理論と実践について学ぶ専門的科目を履修する。
3. 3年次には、1年次、2年次の学びに基づいた教育実習を行い、リフレクションを行う。
4. 4年次には、本学部（学科）での学びの集大成として、自らテーマを設定し卒業論文に取組み発表する。

◆ディプロマ・ポリシー

本学部（学科）では、本学部の課程を修め、所定の単位の修得と必修等の条件を満たすとともに、以下の知識・能力・資質等を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与する。

1. こどもの生涯にわたる成長および発達、それに関わる保育と教育について原理的な知識と理解を修得している。＜教育に対する基礎的理解＞
2. こどもの教育に関する新しい展望と課題について様々な角度から学修し、教育学・保育学分野の専門的知識と技能を修得している。＜教育に関する専門的理解＞
3. 誰もが積極的に社会参加・貢献できる社会構築に向けた課題を理解し、それらに適切に対処できる技能を修得している。＜共生社会において身に付ける教養＞
4. 生涯にわたって自律的に学び続け、教育者として自ら成長していくためにテーマを設定し、課題を解決する探究的な学びを修得している。＜主題を立て自ら探究する学び＞

〔優れた取組〕

本学部の学生は、教育の基礎的理解に関する科目や保育や教育の指導法に関する科目等の学修や教員採用試験に向けた学修に取り組まなければならないが、それらの学修に関する知識や技能を学部の教員はただ教えるだけではなく、それぞれの目指す免許取得に向け、一人ひとりの学修の進捗状況に応じた支援を行なっている。

〔改善の方向性・課題〕

こども教育学部の学生を指導している他学部、学科の教員から「授業中の反応が良い。

自分の考えを積極的に発言する」などの評価を受けている。このことからコミュニケーション能力や社会性に優れていることが分かる。しかし、学生個々の学力格差は大きい。この格差を埋めるため習熟度別の課題を用意したり対話的な学修形態を取り入れたりするなどの工夫が必要である。

<根拠となる資料>

教職課程履修の手引き

学生による授業評価報告書

学生便覧

履修カルテ

(3) 保育学科

〔現状〕

保育学科は幼稚園教諭免許状（及び保育士資格）の取得を原則としているため、3つのポリシーは保育者養成を目指したものとなっている。本学科の3つのポリシーは以下のとおりである。

◆アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

保育学科は幼稚園教諭免許状（及び保育士資格）の取得を原則としているため、3つのポリシーは保育者養成を目指したものとなっている。本学科の3つのポリシーは以下のとおりである。

◆アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

本学科では、幼稚園教諭や保育士等、子どもの成長を育み支援する人材の育成を目指しています。保育や幼児期の教育に関心をもち、学ぶ意欲のある学生を求めます。

- 1 建学の精神（勇気・親和・愛・知性が調和する人間性を養う人格教育）に賛同する人。
- 2 保育者になろうとする強い意志をもち積極的に学び、努力を惜しまない人。
- 3 子どもが好きで、子どもと積極的にかかわり理解しようとする意欲がある人。
- 4 豊かな感性とコミュニケーション能力、温かな愛情をもって子どもの健やかな成長を支援しようとする人。
- 5 将来、認定こども園や幼稚園、保育所、児童福祉施設等で働き、社会貢献しようとする人。（幼稚園教諭や保育士等は、多様な分野の知識や技能が必要です。従って高校時代においても、幅広く学び、各教科の基礎的内容を身に付け、問題解決に自ら進んで取り組むことを期待します。）

◆カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学科では、豊かな人間性と実践力のある質の高い保育者を養成します。そのために、

建学の精神「筑紫の心」 勇気・親和・愛・知性と幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針との関連性を理解し、以下のような観点から一般教育科目、専門教育科目を有機的に結び付け体系的な教育課程を編成・実践します。

- 1 基礎的な一般教育科目、専門教育科目、免許・資格取得に関する科目、保育の応用・実践科目等を体系的に配置します。
- 2 必要な単位を修得することで短期大学士（保育学）をはじめ、幼稚園教諭二種免許、保育士資格、レクリエーション・インストラクター資格、認定ベビーシッター資格、こども音楽療育士資格、社会福祉主事任用資格等を取得することができます。
- 3 キャンパス内にある認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園との連携を密にし、保育現場で役立つ実践力を身に付けることができる教育課程を編成・実施します。
- 4 本学科では、教育課程内ではもちろんのこと、教育課程・保育課程外での行事教育や各種取組（入学前のピアノレッスン、補完指導等）を積極的に行い、学生の支援に努めます。

◆ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

本学科では、東筑紫短期大学が定める学科の教育目標を達成するように設定した教育科目を履修するとともに、免許・資格に必要な単位を修得できるよう指導をします。そして、以下のような資質や能力を備えた学生に短期大学士（保育学）の学位を授与します。

- 1 本学の建学の精神である「筑紫の心」－勇気・親和・愛・知性の四つの心－を基に、使命感、協調性、教育的愛情をもって、地域社会に貢献しようとする人。
- 2 子どもを理解し、支援する保育者として求められる職業倫理観や保育に関する基礎的・基本的な事項など専門的な能力を修得している人。
- 3 必要な専門的知識・技能とその活用能力やコミュニケーション能力を生かし、さらに保育者としての自覚をもって子どもの自己特性を大切にしたい対応ができる人。
- 4 子どもを取り巻く家庭や地域との連携・協力の重要性を理解し、質の高い保育の実践を求めて学び続ける人。
- 5 社会の急速な変化に対応でき、時代のニーズに沿った保育観がもてる人。

本学科では、幼稚園教諭や保育士等、子どもの成長を育み支援する人材の育成を目指しています。保育や幼児期の教育に関心を持ち、学ぶ意欲のある学生を求めます。

本学科においては、教職課程委員会を設置し、自ら掲げる建学の精神に基づいた教員像を具体化し、全学的な教職指導体制の確立と本学ならではの教員養成を目指し運営している。学科長及び教職課程担当者が教職課程委員会に属し、目的・目標を共通理解している。

また、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格を取得するにあたり、「教育職員免許法施行規則」や「児童福祉法施行規則」に基づいて教育課程を編成している。各教育科目で習得すべき到達目標や科目概要は「東筑紫短期大学シラバス（授業内容）」で提示している。また、建学の精神との関連性を基に目指すべき保育者像に必要な科目を分類明示しており、学生自身が科目ごとに学習成果を理解し、到達度を計ることができる。1 年次には基礎理

論を中心とした必修科目、2 年次には保育者に必要な保育内容五領域から総合的指導までの必修科目及び選択科目を開講することで、2 年間で十分な学修成果を得ることができるようにしている。教員免許状取得に必要な科目の一つ「保育・教職実践演習」の授業において学生のこれまでの教職課程履修状況を確認し、学生自ら自己課題を見付け、アクティブ・ラーニングの視点で研究をすすめ、ICT を活用し、研究をまとめ、研究発表を行うことで知識・技能等共有し合い教員としての資質・能力を高めている。

教員として必要な知識や技能等を習得したことを確認するために「履修カルテ」を活用している。教職課程の全期間を通して、大学と学生双方が履修カルテを活用することで本学の設定する教員像に向けた学習活動がより充実したものとなっている。学習成果の評価については、授業終了後の授業評価により測定し、教員はその結果を踏まえて授業の改善計画を行う。また、学外実習においても実習先である、幼稚園・保育所・施設の評定に基づく評価を行っている。したがって、本学科の教育課程の評価は、教員、学生、実習先それぞれから測定可能なシステムになっている。

教職課程の目的・目標は、教職課程履修の手引きで学生に周知している。

〔優れた取組〕

保育学科では、教職課程委員会において自ら掲げる建学の精神に基づいた教員像を具体化し、全学的な教職指導体制の確立と本学ならではの教員養成を目指し運営しており、さらに学科長と教職課程担当者が目的・目標を共通理解している。

〔改善の方向性・課題〕

「教職課程履修の手引き」については、教育実習の事前準備等で説明され、それ以外は、学生自身が読んで理解していく流れとなっている。どの程度、学生が周知しているのか周知の状況を今後確認していきたい。教職員・教育課程履修学生ともに共有・理解を図るために再確認するよう検討していくことが必要である。

<根拠となる資料>

令和 6 年度教職課程 自己点検・評価報告書

教職課程履修の手引き

学生による授業評価報告書

学生便覧

履修カルテ

シラバス

(4) 食物栄養学科

〔現状〕

本学は昭和 11 年の設立以来、一貫して「筑紫魂」を建学の精神としている。現在は創設者・宇城信五郎の起草した「教育とは心の畑を耕すことでもあります。ともすれば草を生い茂らせ狭隘にして痩せ細りがちな心の畑の草をむしり肥料をつちかい新生する芽を伸ばし

ていくところに教育の使命があります。東筑紫学園の建学の精神は教職員・学生生徒が心をひとつにして勇気、親和、愛、知性の四つの芽を心の畑に種蒔き育てていくことにあります。筑紫の心は国を愛し労働をいとわず親や祖先を崇め己れをむなしくして社会に奉仕する人間像を理想にしています。」という「筑紫の心」が学校教育の精神的基盤となっている。

被服科を始まりとする本学は社会に役立つ実学としての和裁・洋裁とそれを根っこで支える「筑紫の心」が不可分一体を目指して教育がなされてきた。具体的には、衣、食、住、子育て、介護という各学科の専門の知識、技術を修得探求させるということと、「筑紫の心」にある四つの徳目を育てながらやがてそれらを調和させて社会に奉仕できる教職員に成長させるという二つの教育的要請である。

こうした教職課程の理念を踏まえて、以下の「目指す教師像」を提示している。

- ① 使命感や責任感、教育的愛情のある教師
- ② 社会性や対人関係能力を身につけた教師
- ③ 幼児および児童・生徒理解や学級経営への高度な実践力を持つ教師
- ④ 食育・保育等の実践的指導力を身につけた教師

「教職課程の理念」及び「目指す教師像」は、デジタルパンフレットとして大学ウェブサイトで公開しているほか、「教職課程履修の手引き～栄養教諭及び幼稚園教諭となるための学び～」を毎年作成し、履修上の諸情報と共に明記している。

短期大学食物栄養学科では栄養教諭養成を目的としていることもあり、その3つのポリシーは教員養成を目指したものになっている。

◆アドミッション・ポリシー

- 1 建学の精神（勇気・親和・愛・知性が調和する人間性を養う人格教育）に賛同する人。
- 2 現代社会で求められる「食」のプロとして社会に貢献したいという熱意を持つ人。
- 3 「食」や「健康」に対して強い関心を持ち、主体的に学習する意欲を持つ人。
- 4 食育の推進に向けて、目的意識をもって取り組むことができる人。
- 5 「医療」や「福祉」にも興味関心があり、幅広く学ぼうとする意識を持つ人。
- 6 お互いの役割を理解し合い協調性をもって取り組むことができる人。

◆カリキュラム・ポリシー

- 1 短期大学士としての一般教養科目や栄養士免許規定科目を全員が無理なく履修できるようにカリキュラムが組まれている。
- 2 栄養と健康の関係について専門的な知識を養うと共に、調理技術等を徹底履修するために多くの実験・実習科目を設置している。
- 3 本学科の正規の授業を履修することで「栄養士」免許と「栄養教諭二種」免許または「医療秘書実務士」等の資格が取得できる。栄養士養成に関連した授業と他の免許や資格取

得のための授業が2年間で効率よくカリキュラムに組まれている。

- 4 学外実習として現場での実習は実践力の修得のみならず、自分の適性に合った職場を考える機会となる。病院、施設、保育所などから選択する給食実習や小中学校での給食実習、さらには栄養教諭としての教育実習や医療事務の実習が組まれている。

◆ディプロマ・ポリシー

- 1 本学の建学の精神である「筑紫の心」-勇気・親和・愛・知性の四つの心-を基に、使命感、協調性、倫理観、豊かな人間性を身に付けている。
- 2 栄養士専門分野を深く理解し、地域社会において貢献できる実践力を身に付けている。
- 3 現代社会に求められる多様な技術を修得し、栄養士業務に活用できる力を身に付けている。
- 4 栄養士養成の中でさらに、小・中学校の栄養教諭としての資質を身に付けている。
- 5 栄養士養成の中でさらに、医療秘書事務士としての技術、並びに医療に関わる職業人としての幅広い知識を身に付けている。
- 6 栄養士養成の中でさらに、食分野に深く関わるスペシャリストとしての力を身に付けている。

上記の3つの方針をもとに、食物栄養学科における教職課程の意義および理念について次のように定めている。

―栄養教諭としての教員養成をすることの意義および理念―

中央教育審議会の『食に関する指導体制の整備について（答申）』（平成16年1月）では「食は人間が生きていく上で基本的な営みのひとつであり、健康な生活を送るためには健全な食生活は欠かせないものである。しかしながら、近年、食生活を取り巻く社会環境の変化などに伴い、偏った栄養摂取などの食生活の乱れや、肥満傾向の増大、過度の痩身などが見られるところであり、また、増大しつつある生活習慣病と食生活の関係も指摘されているともいえる。特に、成長期にある児童生徒にとって、健全な食生活は健康な心身を育むために欠かせないものであると同時に、将来の食習慣の形成に大きな影響を及ぼすものであり、極めて重要である。」と指摘している。そして、子どもにおける食習慣の乱れの顕著な例として「朝食欠食」、「子どもだけで食事を摂る孤食」、「肥満傾向」の増加をあげ、それが成人した後も影響しているという調査結果を報告している。また、「栄養と脳の発達や心の健康との関係」についても指摘し、栄養教諭の必要性を強調している。

この答申によって栄養教諭制度が創設され、平成17年4月から栄養教諭の教員養成が始まり、本学もこれと同時に栄養教諭の養成を開始した。

〔優れた取組〕

栄養教諭の職務は「食に関する指導」と「学校給食の管理」であり、児童生徒が望ましい食習慣を形成するよう、食事の重要性や心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化について指導する。

教員免許状は、文部科学省により教職課程の認定を受けた大学、または文部科学大臣の指定する教員養成機関に一定年限以上在学して、所定の単位を修得し「教員としての最小

限必要な資質能力を持った者」に授与される。

本学科では栄養教諭二種免許状を取得することができる。栄養教諭の教員免許状を取得するには、基礎資格として栄養士免許の取得に必要な単位を修得するとともに、教科に関する科目、教職に関する科目の全単位を履修し、「教員として最小限必要な資質能力を持つ者」と認定された者へ授与している。

〔改善の方向性・課題〕

平成 29 年度改訂の学習指導要領は資質・能力を育み、主体的、対話的で深い学びへの授業改善や社会に開かれた教育課程の実現が求められている。このことは栄養教諭が行う食に関する指導においても求められることである。そのためには、児童生徒が主体的に望ましい食習慣を形成する授業や地場産物の活用や地元の生産者の協力を得た授業の実施が不可欠になってくる。そのような、栄養教諭の質の高い授業実践が栄養教諭の採用枠の拡大にもつながっていくと考える。

＜根拠となる資料＞

教職課程履修の手引き

大学案内

本学ウェブサイトのデジタルパンフレット

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

(1) 食物栄養学部

〔現状〕

本学の「教職課程委員会」は九州栄養福祉大学と東筑紫短期大学の教職に関わる教職員によって構成されており、様々な情報交換を行うことができる。この会には、学長補佐、教務部も構成員として参加しているので、教職課程履修や栄養教育実習、免許申請などの各種手続きも各部が連携しながら、スムーズに運営されている。

またオムニバス授業や複数教員による授業もあり、多くの視点から学生を見守ることを心掛けている。

〔優れた取組〕

管理栄養士養成課程では 3 回の臨地実習が課されているが、教職課程履修学生は、その内 1 回を小中学校で実習することになっている。その際、必ず教師が実習先を訪問するが、教職担当教員だけでなくゼミの担当者やクラス担任も協力して、出来るだけ学生をよく知る者が出向き、学生を励まし、実習成果を確認するようにしている。その結果、学生は一層の熱意をもって実習に向かい、大きな成果を生んでいる。

さらに、4 年生や卒業生が教員採用試験を受験する場合は、教職課程担当教員が早い時期から学習会を計画して、専門領域・教職領域において万遍無く準備できるような支援体

制を取っている。

〔改善の方向性・課題〕

昨年度、文部科学省が教員採用試験の時期を繰り上げることを提案したため、従来の栄養教育実習の時期をずらさなくてはならず、一部、事前事後指導の内容に支障をきたしている。また、栄養教育実習から教員採用試験までの期間が短くなり、十分な準備ができないことが懸念される。

学科の特性として、年度末に行われる管理栄養士国家試験への取り組みに重きが置かれるが、教職員で連携し、教育実習や教員採用試験にむけても組織的な指導体制を工夫していきたい。

＜根拠となる資料＞

学生便覧

本学ホームページ

シラバス

教職課程履修の手引き

栄養教育実習要領

（2）こども教育学部

〔現状〕

本学部では、教職課程の運営方針に関することや教職課程の編制、講義および教育実習に関すること、教職実践演習の授業評価、教員免許状の授与の可否に関すること、履修カルテに関することなどについて毎週月曜日に実施しているこども教育学科会議で協議し、必要があれば教職課程委員会と連携して課題解決にあたるようにしている。

〔優れた取組〕

本学部では、小学校教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格を取得することができる。そのためには、各免許状、資格を取得するに必要な科目、実習を受講しなければならない。本学部は、研究者教員と公立学校、附属幼稚園の管理職を経験した実務家教員で構成されているため理論と実践の往還の観点から科目や実習の見直しを行い、質の向上を図ることができる。

〔改善の方向性・課題〕

本学部では、1年生で体験実習を、2年生で基礎実習、3年生で教育実習、4年生でインターンシップ実習と特別支援学校の教育実習を行う。その際、北九州市教育委員会や近隣の公立小学校、特別支援学校、学生の出身地の小学校等と絶えず連絡・調整を行わなければならない、計画的な運用が課題である。

＜根拠となる資料＞

学生便覧
本学ホームページ
シラバス
教職課程履修の手引き

(3) 保育学科

〔現状〕

保育学科における教職課程の組織的工夫としては経験豊富な実務家教員の活動を重視していることにあり、特に実習指導においては各教員の実務経験や人脈等を生かした綿密な指導が行われていることである。また、学科所属の助手・副手も実習支援を中心に指導補助や事務的作業を主体的に行い、課程指導の円滑な運用に寄与しているほか、本学科のみならず事務職との協働にも注力しているところである。また、専攻科（介護福祉専攻）教員とともに協力し、保育学科・専攻科（介護福祉専攻）全教職員の両輪による学生指導を行っている。

教職課程の運営に関して、教員は九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学学長補佐、九州栄養福祉大学食物栄養学部の教職課程担当者、東筑紫短期大学保育学科・食物栄養学科の各学科長ならびに両学科の教職課程担当者が中心となり、事務職員は教務部長、教務課長、教務課員で組織されている。教職課程委員会が組織の中心となっており、教職課程委員は教職課程認定に関わる作業や対外的な交渉を中心に行っている。

また、教職課程委員会は、以下の事項を管轄する。

- (1) 教職課程の運営方針に関すること。
- (2) 教職課程の編成、講義および教育実習に関すること。
- (3) 教職実践演習の授業評価、教員免許状の授与の可否に関すること。
- (4) 履修カルテに関すること。
- (5) その他教職課程に関すること。
- (6) 教務委員会と密接に連絡、調整、協議を行い、教授会を支援する。
- (7) 以下のような学外機関との連絡調整等。

都道府県・市町村教育委員会、北九州地区大学教育実習連絡協議会、福岡県内大学・短期大学等の教育実習期間、介護等体験連絡協議会

学内での模擬授業は、設備を整えた演習室 2 号館（つくしっこルーム）・附属幼稚園研修室などを活用し行っている。昨年度行われていた 1 号館の全面改修工事が終了し、新 1 号館が完成し、教室・設備もさらに充実された。学生は、新しく設備の整った教室や演習室で最新の機器を使用してさらに充実した講義・演習を学ぶことが出来るようになった。

毎週開催される学科会議においては必ず FD 会議を設けており、教員間で学生の動向を把握できるようにしている。また、年 2 回大学全体（大学院・大学・短期大学）で FD や SD の研修会を導入し実施している。今後は、教職課程に特化した FD・SD も実施していく必要がある。

教職課程に関わる情報公開は、一部行っている。本学では、教職課程を受講している学生、教員全員に「教職課程履修手引き～栄養教諭および幼稚園教諭となるための学び～」をその年度の実習に行く学生に配布している。教職課程委員会の規定などは公開されておらず、こうした事柄も公開していく必要がある。

本学の全学的な教育課程及び内容、方法の適切性についての点検・評価は、各学部、学科、教職課程委員会等の組織単位で点検し、その結果は、教学担当の東筑紫短期大学学長補佐が確認し、その後教授会で審議され取り組んでいる。本学は、各学部、各学科で行われる学科会議のなかで FD 会議を実施し、常に教育の質向上に取り組んでいる。教職課程委員会に関してもその一環として点検・評価・見直しが行なわれている。教職課程委員会は、教授会の同意を得て組織的に機能している。

〔優れた取組〕

既述の通り、本学科の組織上の特色は経験豊富な実務家教員の活動を重視していることにあり、とくに実習指導においては各教員の実務経験や人脈を生かした綿密な指導が行われていることである。事務職員・副手・助手との組織的連携により、とくに現場で求められるいわゆる現場での基礎的指導力を養うあるいはその気づきとなるような指導に注力している。

〔改善の方向性・課題〕

教職課程に特化した FD・SD 研修を実施する。教職員全体で授業内容および指導方法の改善・向上を図るための組織的な取り組みを強化していく必要がある。

＜根拠となる資料＞

本学ホームページ

学生便覧

教職履修カルテ

シラバス作成のガイドライン、シラバス

（4）食物栄養学科

〔現状〕

本学では教職課程を総合的に運営するために、教職課程委員会を設置し、本学で養成しようとしている教員像を明確に持ち、それを達成するためのカリキュラム編成、授業科目の設定、教員の採用、教育方法の工夫を行うようにしている。

〔教職課程委員会の目的・構成・管轄する事務〕

○ 教職課程委員会の目的

教職指導体制を確立し、教員養成の目標を達成するため

○ 教職課程委員会の構成

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学学長補佐

九州栄養福祉大学食物栄養学部の教職課程担当者
東筑紫短期大学保育学科・食物栄養学科長
東筑紫短期大学保育学科・食物栄養学科の教職課程担当者
九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学教務部長
九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学教務課長
九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学教務職員
委員長は、学長補佐があたる

○ 教職課程委員会の管轄する事務

- ① 教職課程の運営方針に関すること。
- ② 教職課程の編成、講義および教育実習に関すること。
- ③ 教職実践演習の授業評価、教員免許状の授与の可否に関すること。
- ④ 履修カルテに関すること。
- ⑤ その他教職課程に関すること。
- ⑥ 教務委員会と密接に連絡、調整、協議を行い、教授会を支援する。
- ⑦ 学外機関（都道府県・市町村教育委員会、北九州地区大学教育実習連絡協議会、福岡県内大学・短期大学等の教育実習機関、介護等体験連絡協議会）との連絡調整等。

〔優れた取組〕

教職課程委員会を設置することによって、栄養教諭二種免許を取得する学生に対する、取得に必要な基礎資格や教職に関する科目の履修指導を確実に行うことができている。また、本学における建学の精神および目標とする教員像を具体化する教育実習となるよう協力校との連携・協力を密接に行なうことが出来ている。さらに、教職課程の全授業科目の履修カルテを作成し、教職課程を履修する学生全員にカルテ作成を義務付けるとともに教職課程を担当する教員も学生一人ひとりの履修カルテを作成し「教職実践演習」で活用している。このように、教職課程を履修する学生の学修や実習が効果的に行われるのも、教職課程委員会の設置による長所である。

〔改善の方向性・課題〕

栄養教諭二種免許を取得する学生は実習協力校において家庭科や体育科、学級活動（2）の時間を通して「食に関する指導」を行う。この時、学習指導案を作成し授業を行うが、学生にとって指導案作成は非常に困難な内容である。そのため、1年次から2年次の教職課程科目の中で計画的に指導案作成に必要な資質・能力を育成するようにしている。今後はさらに、その内容の充実を図っていく必要がある。

＜根拠となる資料＞

教職課程履修の手引き

大学案内

本学ウェブサイトのデジタルパンフレット

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成

(1) 食物栄養学部

〔現状〕

食物栄養学部は、食を通して福祉を実現する使命感を持った管理栄養士の育成を目的として、次のようなアドミッション・ポリシーを掲げている。

- 1 本学の建学の精神・教育理念、本学の教育目標に賛同する人
- 2 相手の立場や気持ちを理解し、謙虚な姿勢で社会に貢献することを望む人
- 3 専門的知識、技能及び教養を培うために主体的、積極的、継続的な努力を惜しまない人
- 4 食と健康のかかわりについて強い関心をもち、科学的な視点から学ぶ意欲のある人
- 5 新しいことにチャレンジする勇気をもっている人

この 5 項目に加えて、教師としての資質を身に付けた学生をしっかりと育てるために、高校生・保護者を対象としたオープンキャンパスの段階から、「栄養教諭」のブースを設け、担当教師と教職課程を履修する学生とで、説明やデモンストレーションなどを行っている。参加者の中には、栄養教諭を希望して本学を志願している高校生もいれば、全く知らずに話を聞く者もいるが、それぞれに興味を示し、熱心に耳を傾けてくれる。

また新入生に対しては 4 月のオリエンテーションで、2005 年成立の食育基本法によって誕生したことや栄養教諭の意義について全員に説明し、日本各地で求められている職能であることを理解させ、教職課程履修の方法や学習の実際の様子を詳しく伝えている。

学生の中には、「栄養教諭について詳しく知っている者」「何となく知っている者」「全く知らない者」など色々であるが、知らなかったために履修できなかったという学生がいないように丁寧な紹介を心掛け、栄養教諭をめざす学生の確保に努めている。

〔優れた取組〕

入学時に栄養教諭について詳しく説明した上で履修手続きを行うため、教職課程を履修する学生には教師を目指したいという強い希望をもった学生が多い。また、一般学生よりも多くの科目を受講しなければならない状況の中でも熱心に学習に取り組む姿が見られる。

〔改善の方向性・課題〕

栄養教諭をめざし教員資格を希望して履修する学生の中には、受講科目のコマ数が増え、予習復習や試験準備の負担が多いことなどから、途中で断念する者も少なくない。全員が管理栄養士を目指す本学部は必修の実験や実習が多いため、4 年間を通じて空き時間は少

ない。さらに、教職科目は卒業必修の単位数にはカウントされないため、栄養教諭免許取得は学生にとって、非常に厳しい選択となっている。

<根拠となる資料>

学生便覧

本学ホームページ

シラバス

教職課程履修の手引き

栄養教育実習要領

(2) こども教育学部

本学部のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）は、小学校教諭、特別支援学校教諭、幼稚園教諭、保育士等、多様な教育分野における専門的知識と技術を持った教育者を養成するために、以下に掲げる人材を求める。

1. 建学の精神（勇気・親和・愛・知性を基盤にした人格教育）に賛同する人
2. 高等学校までに学習した全ての教科において、基礎学力を身につけている人
3. 教育者になろうとする強い意志を持ち、積極的に学び、思考力・判断力・表現力を身につけようと努力する人（主体的意志力・思考力・判断力・表現力）
4. 豊かな感性・受容力・コミュニケーション能力を養い、地域を取り巻く教育に関心を持ち、こどもの健やかな成長を支援しようとする人（協調性）

〔現状〕

令和7年4月に開設した本学部には25名の学生が入学した。これらの学生はアドミッション・ポリシーの1、3、4はすでに身につけた学生が多く、本学部の授業を担当する他学部、他学科の教員からも「授業中の反応が良い」、「積極的に自分の考えを述べようとする」などの評価も得ている。また、1年生の夏季休業中に行った3日間の体験実習では、近隣の公立小学校長や附属幼稚園の園長からは「積極的に児童や幼児に関わろうとする姿が見られた」、「目的を持って実習に参加している」という評価も得ている。しかしながら、個々の学力格差は大きく、授業における学習支援に前向きに取り組んでいる科目も見られるが、学生が履修する科目全体で考慮していかなければならない。

〔優れた取組〕

本学部に入学者の教員免許状取得への興味・関心は高く、福岡県や福岡市、北九州市及び出身地の教員採用情報にも高い関心を示している。さらには、北九州市教育委員会が開催する北九州市教育委員会主催の教員養成塾や教員採用試験対策講座、民間の教員採用試験対策講座にも熱心に参加している。

〔改善の方向性・課題〕

永く、栄養と福祉に関わる学部で学び、卒業生も多く輩出してきた大学なので、本学に小学校や特別支援学校、幼稚園の一種免許状や保育士資格が取得できることも教育学部が開設したことを高等学校の管理職はじめ進路担当者が多いことが学校を訪問してわかる。本学部学科の存在を北九州市内の高等学校を中心に周知していかなければならない。

<根拠となる資料>

学生便覧

本学ホームページ

(3) 保育学科

〔現状〕

保育学科では既述の通り入学受入れの方針を定めている。これらの方針について、本学ウェブサイト、大学案内などに明確に示し、周知を図っている。毎年地域社会と連携を図りながら保育学科独自の子育て支援を実施し、子どもの健やかな成長を保証するために必要な人材を養成している。その際には、キャンパス内にある附属幼稚園や科内にある演習室を活用している。また、本学科に入学する学生は幼稚園教諭や保育士になることを目的としているため、質の高い保育者を目指し、幼稚園教育要領、保育所保育指針等と本学の建学の精神である「筑紫の心」(勇気・親和・愛・知性)の4つの心の関連性をより一層理解することが求められる。保育者としての専門性を育成するための方策として、「キャリア教育演習Ⅰ(初年次教育を含む(1年通年))」、「キャリア教育演習Ⅱ(2年通年)」を単位化していることなども、広く受験生に周知している。

さらに、教職課程の総仕上げの一つに位置づけられる教育実習の受講資格として以下の基準を設けている。

1. 1年次前期の専門教育科目(教職概論、教育心理学、教育実習事前指導)を修得している。
2. 1年次までの教職に関する専門教育科目すべての履修カルテを提出している。
3. 心身ともに健康である。
 - ・伝染の可能性がある疾患を有さない。
 - ・教育実習遂行の妨げとなる疾患を有さない。
4. 幼児に対して適切な言語活動、立ち居振る舞いができる。

この基準に満たない学生に対しては個別にレポート課題や補講を課し基準を満たした上、附属幼稚園で補完実習を実施しており、大いに学習成果を上げている。

〔優れた取組〕

キャンパス内にある附属幼稚園や科内にある演習室を活用し、地域社会と連携を図りながら、子育て支援を実施し、子どもの健やかな成長を保証するために必要な人材を養成するなど、教職を担うべき適切な人材(学生)の確保・育成に積極的に取り組んでいる。

〔改善の方向性・課題〕

東筑紫短期大学履修規程に基づき、保育学科の学生は教育職員免許状の取得を原則としている。免許取得に必要な一般教育科目と専門教育科目の単位数を2年間で確保することが困難な学生については、途中で幼稚園教諭免許状の取得を断念せざるを得ないこともあるため、個別の対応が今まで以上に必要であると考ええる。

＜根拠となる資料＞

教職課程履修の手引き

本学ホームページ

学生便覧

教職履修カルテ

（4）食物栄養学科

〔現状〕

食物栄養学科の入学受入れの方針は以下に示す通りである。

- 1 建学の精神（勇気・親和・愛・知性が調和する人間性を養う人格教育）に賛同する人。
- 2 現代社会で求められる「食」のプロとして社会に貢献したいという熱意を持つ人。
- 3 「食」や「健康」に対して強い関心を持ち、主体的に学習する意欲を持つ人。
- 4 食育の推進に向けて、目的意識を持って取り組むことができる人。
- 5 「医療」や「福祉」にも興味関心があり幅広く学ぼうとする意識を持つ人。
- 6 お互いの役割を理解しあい協調性をもって取り組むことができる人。

本学科ではこのアドミッション・ポリシーを満たした学生を受け入れている。このアドミッション・ポリシーは、大学案内や大学ウェブサイトのデジタルパンフレット、入試要項にも記載しており、入学を希望する学生は本学の建学の精神やアドミッション・ポリシーを十分に理解したうえで受験している。その根拠は、入試の際の面接において「本学のアドミッション・ポリシーへの理解」についての問いに全員の受験生が「理解している」と回答していることにある。

食物栄養学科では、このアドミッション・ポリシーに基づき、栄養教諭二種免許を取得する学生が教育実習に臨む条件を以下に示す通り設定している。

- ① 教師として最低限必要な倫理観や道徳観を身につけている。
- ② 児童・生徒、教職員とコミュニケーションを取ることができる。
- ③ 発達段階に応じた児童・生徒の理解ができる。
- ④ 学校という組織の一員としての自覚をもって行動できる。
- ⑤ 食に関する指導の1時間の学習指導案を立案できる。
- ⑥ 食に関する指導の1時間の授業が実践できる。

⑦ 栄養教諭に対する情熱がある。

①～⑦の条件を満たすことができるよう、カリキュラム・ポリシーを設定し指導にあっている。

〔優れた取組〕

食物栄養学科では、教職課程の履修及び教育実習の要件を定めたカリキュラム・ポリシーを設定しているが、栄養教諭二種免許取得を目指す学生は真剣に教職課程の学修を履修し実習に行くようにしている。さらに、実習に係るすべての授業において実習の心構えや教員に求められる資質・能力を育成するようにしている。

〔改善の方向性・課題〕

教職課程履修及び教育実習の要件を定めているために、その要件を満たせなかった学生のサポートが課題である。特に、学生の学修や実習への意欲を維持・向上させるように、学生一人ひとりに寄り添った対応が今まで以上に求められる。

＜根拠となる資料＞

教職課程履修の手引き

大学案内

本学ウェブサイトのデジタルパンフレット

東筑紫短期大学募集要項

基準項目 2－2 教職へのキャリア支援

(1) 食物栄養学部

〔現状〕

近年、小中学校の現場では校務支援システムの導入が進み、ICTの活用能力が必須となっている。学習指導要領に掲げられている資質・能力の三つの柱をバランスよく育成するためにも児童・生徒や学校等の実態に応じ、各教科等の特質や学習過程を踏まえて、教材・教具や学習ツールの一つとしてICTを効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげることが重要とされている。

このような状況に対応するため、食物栄養学部では教職課程必修の「コンピュータリテラシーⅠ・Ⅱ」に加え「栄養情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」を卒業必修科目として設け、時代の要請に対応できる栄養教諭を育てている。また、本年度から食環境データサイエンス学科の開設の伴い、選択科目の1つとして「AI・データサイエンス入門」、「AI・データサイエンス基礎Ⅰ・Ⅱ」が開講され、さらなるICT活用のスキル向上が期待される。

また、最近の大学生はリアルな世界での対人コミュニケーション能力が低下しているともいわれるが、教師を目指す学生にとって、児童生徒と関わる力は不可欠なものである。

そこで本学部では、学生に子ども達と直接に関わる経験を積ませるために、様々な地域連携活動に取り組んでいる。今年度も北九州市産業経済局の中央卸売市場と連携して「市場みらい塾料理教室」を実施した。夏休み期間中に各区の市民センターを会場として児童・生徒を対象として行われた。教職課程履修者を中心に学生は講師として参加し、北九州市特産の農作物を使ったレシピを考案し調理指導を行うとともに、地産地消の意義や SDGs に向けた食生活推進について子ども達に分かりやすく説明するといった取組を展開した。

その他、全学的に実施するオープンキャンパスでは、栄養教諭ブースを企画し、3・4年生の教職課程の学生が参加の高校生に対して子どもへの食育の重要性と栄養教諭という職についての説明を行うとともに、簡単な食育教材の実践などを紹介する活動を行った。

そのような活動を通して、学生は教職への意欲や栄養教諭への憧れを高めているが、一方学校現場で働くことへの不安も大きい。そこで、3年生対象のキャリアデザインで行う卒業生講話では毎年必ず栄養教諭を招き、仕事のやりがいや学校現場の実態について講話をお願いしている。

また、昨年度に引き続き、教職課程の学生の授業力の向上を図るために北九州市教育センターと連携した「kitaQ みらい塾」の出前講義を実施した。今回は、「授業づくり」、「ICT活用」について、グループ討論や演習といったアクティブ・ラーニング形式で実施された。

「ICT活用」では、教育現場に即した形で ICT の効果的な活用について学ぶことができた。このような学習体験により具体的な教師像が形成され、教員採用試験への意欲の向上につながった。来年度も北九州教育センターと連携し、同様の取組を継続していく予定である。

〔優れた取組〕

教職科目として教育に関わる内容を学習するだけでなく、実際に地域活動や行事で学童期の子ども達と接することで、学生は自分が身に付けた専門性の有効性を実感するとともに、指導することの面白さを感じることができたようだ。

「子ども達の反応がとても可愛く、すごくやり甲斐があった」、「地域の子ども達が興味を示してくれて、準備したかいがあった」、「普段、子どもと関わることがないので、すごくいい経験ができた」など充実感を味わい、その後の教職への思いを強くしている。

また、栄養教諭として働く先輩の来校を知って質問をする姿も見られ、学年が上がるにつれて教職への希望が具体化し、現実的なものになっているようである。

〔改善の方向性・課題〕

本学は、管理栄養士養成大学として、管理栄養士の資格取得に向けた教育が重要であるが、教職を目指す学生にとっては、併せて栄養教諭一種免許が取得できるよう子どもへの教育に携わる魅力を伝えとともに、継続的な指導が必要である。さらに児童生徒理解を図る上で、栄養教育実習だけでなく、子ども達と交流する機会についても大切にし、活躍できる場を開拓していかなければならない。

<根拠となる資料>

学生便覧

本学ホームページ

シラバス

(2) こども教育学部

〔現状〕

近年、教員不足は社会問題化している。それに伴って、教員の採用者数は増加傾向にある。つまり、教員になりやすい状況だということである。だからと言って、誰でも教員になれるかというところという訳にはいかない。未来を生きるこどもたちに教員が与える影響は大きい。だからこそ、小学校や特別支援学校、幼稚園、保育園の教員を養成する段階においては、ただ、免許や資格を与えるだけでは不十分である。こどもたちから「先生」と言われる立場にある自分は、どのような振る舞いが求められるのか絶えず意識させていかなければならない。具体的には、学修や実習に臨む姿勢であったりともに教職を志す仲間との関係であったり、自分に期待を寄せてくれる保護者や大学の教員の想いにどう応えるかということである。そのためにも、本学の見学の精神に基づいた教育や行事教育の充実を図っていかなければならない。また、学生が将来勤務したい小学校や特別支援学校、幼稚園に1年生の時から体験実習に出かけ、教員としてこどもたちへどう関わればいいのか、教員はどのようにこども達に関わっているのか、学校や園の一日はどのようにものなのかなどを体験的に学ぶキャリア研究の授業も計画的に実施している。このことは、本学を卒業した教員の評判の高さにも通じ、今後の学生募集にも大きく影響すると考える。

しかし、教員に相応しい振る舞いができるだけでは教員採用試験に合格することは難しい。教員採用試験に合格するだけの学力と模擬授業力、面接力等を育成していかなければならない。さらには、学生が受験する自治体の採用試験情報を確実に把握して学生とともにその対策を講じていくことも求められる。

そのために、現段階では学生個々の就職希望調査を綿密に行い、どこの自治体のどの職種の採用試験を受験したいのかを把握し、一人ひとりの受験ニーズに応じた対策を行っている。また、2年生の前期金曜日の4限に「教員採用試験対策講座」を開設、受験に必要な基礎学力の育成に努めている。さらに、2年生の後期には受験対策を生業とする企業と連携して基礎学力向上に努めていきたい。3年生の後期には、模擬授業対策や集団や個別の面接の技能対策も行っていこうと考えている。そして4年生ではインターンシップ実習を行い、学校現場での先生方のお手伝いをするを通して、教育的実践力を高めたい。インターンシップ実習では教育実習のように授業を中心とはせず、ティーチング・アシスタントや教員の授業準備の補助などとして、教育に関わる立場に身を置くことによって、実質的に教員としてのノウハウを会得してもらおうと考えている。基本的には「教員の補助をしながら学校教育全般の職業体験を行う」ことを目的とし、2週間にわたり、学級担任の補助、委員会活動等の補助、報告書の作成、交流会等の活動を実践的に学ぶものである。

このようにこども教育学部では教員になるために必要な見方・考え方を育成するとともに教員として必要な基礎学力を育成するようにしている。

〔優れた取組〕

令和7年度在籍の25名は明るく真面目な学生が多い。1年次のキャリア研究の時間を使って開講される北九州市教育委員会主催の「kitaQ未来塾」（北九州市立教育センターの指導主事が教員に必要な資質・能力について講義をする講座）でも、熱心な受講態度で気持ちよかったという感想をいただいている。このように、教員という仕事に対して志高く取り組んでいる学生が多いということが本学部の長所である。また、大学1年生の時から将来勤務したいと思っている小学校や特別支援学校、幼稚園などに関わることができるということも特色である。さらに、研究者教員と実務家教員がバランスよく配置されているということから理論と実践の往還が丁寧に行えることも特色である。

〔改善の方向性・課題〕

自律した学修姿勢の形成が課題である。どんなに教員になりたいという気持ちはあっても学力が伴わなければ夢の実現は難しい。学生個々の学力に応じたきめの細かい指導が求められる。そのために、学生一人ひとりの進路希望調査を密に行ったり学生の学習や実習の状況を記録したりする個人カルテを活用しながら学生が自らの力で進路を切り開いていく自律的な力を育成していくことが求められる。

＜根拠となる資料＞

個人カルテによる個々の学修状況

（3）保育学科

〔現状〕

1年次における入学時オリエンテーション及び通年授業科目「キャリア教育演習Ⅰ」並びに2年次における年度当初オリエンテーション及び通年授業科目「キャリア教育演習Ⅱ」などにおいて、全在学期間を通じて定期的に、学生の教職等に対する意欲を喚起する活動や自己の適性等について考える活動を設定するとともに、教職員が学生のそれらの状況を的確に把握するよう努めている。さらに、本学における最大の特色の一つである充実したクラス担任制により、各クラス担任が学生一人一人に徹底して寄り添い、個々の状況等に応じたきめ細かな指導に努めている。

前述の状況把握等に基づき、学生部学生指導課及び就職指導課並びに北九州市私立幼稚園連盟等との連携により、前述の当該授業科目等や UNIVERSAL PASSPORT システム活用等により各学生に対する適切な情報提供等に努めている。さらに、学生部学生指導課及び就職指導課とも連携した個別相談・支援の充実に努め、学生一人一人に対するキャリア支援を組織的に展開している。

クラス担任制におけるクラス間相互の連携により、全学生を教職員全員で支援する体制の構築に努めるとともに、教務部教務課及び学生部学生指導課との連携により、学生一人一人の日々の授業出欠状況、各期の成績状況や必修・選択科目の履修・単位取得状況などを的確に把握し、きめ細かな指導に努めている。各クラス担任は各授業担当者とも連携しながら、学生一人一人をその学修状況等に応じたきめ細かな指導等により手厚く支援していくようにしている。

教職に限らず保育等の仕事に就くための各種情報については、「キャリア教育演習Ⅰ・Ⅱ」の授業や UNIVERSAL PASSPORT システム等を活用し、全在学期間を通じて計画的かつ適切に提供するよう努めている。さらに、北九州市私立幼稚園連盟等のご協力を得ながら、幼稚園フェアその他のイベント等への学生の積極的参加を促すようにしている。

各種免許・資格の取得希望調査を「キャリア教育演習Ⅰ・Ⅱ」の授業等において年間 2 回程度ずつ定期的実施するとともに、各クラス担任による随時の個別面談・指導等を通して学生一人一人の教員免許状取得に関する状況把握や意欲喚起等に努めている。また、学生部就職指導課との連携により、学生一人一人に対する採用面接等に関する個別指導等も実施している。

卒業生数名ずつを毎年の「キャリア教育演習Ⅰ・Ⅱ」における就職ガイダンス等の講師として招聘し、就職活動に関する体験談や教育現場に出たの日々の努力等について後輩たちに語り継いでもらう機会を設定するようにしている。そして、卒業生がいつでも気軽に本学を訪ねてくることができるよう、学科長、各クラス担任等を通じて連絡を取り合うなどして教育内容や卒業生への対応の充実にも努めている。

〔優れた取組〕

以上のように、クラス担任制による学生一人一人と教員との距離の近さ、きめ細かな指導等による手厚いサポート体制などが本学の最大の長所・特色である。これにより、毎年非常に高い教員免許状取得率や就職率を維持できていると考える。

〔改善の方向性・課題〕

保育学科志望の高校生は全国的にその人数が減少しているという、非常に厳しい現状がある。まずは、本学の学生の不安や疑問にきめ細かく対応し、解消していくという地道な取組によって学生一人一人の大学生活の満足度を高めていくこと。併せて、広報活動等の一層の充実に努めること。これらによって、教育・保育の現場に夢を描き、それを志す学生を一人でも多く獲得していくことこそ喫緊の課題である。

さらに、学生インターンシップ登録・活動記録用小冊子「筑紫の心」の一層の活用等により、子どもと直接触れ合うボランティア活動等の機会の拡充、学生一人一人の教職へのキャリア支援などを一層充実させていく必要もある。

<根拠となる資料>

本学ホームページ

シラバス

(4) 食物栄養学科

〔現状〕

教職を希望している学生には、入学後、教職担当者を中心に面談を行い、履修状況や意欲の確認を行なっている。教職への意欲が減退・喪失した学生については、適宜指導を行なっている。

教職への意欲は、栄養教諭の職が児童生徒の望ましい食習慣を形成し、生きる力を育成するという観点から、意義のある職であるということを教職課程の各授業の中で伝えることを通して喚起している。また、キャリアガイダンス等を通じて現場で栄養教諭として活躍している先輩の話を聞く機会を設けることによって栄養教諭の魅力に触れるようにしている。

さらに、栄養教諭免許を取得した卒業生を助手として採用し、学生にとって身近な存在として相談や助言を受けることができるように配慮している。

加えて、2年次には、併設する大学の食物栄養学部への編入試験を受験し、栄養教諭一種免許状を取得できることを1年次から説明し、栄養教諭に向けた意識の醸成を図り、高い志を持った学生は、編入試験を受験することを目標に学修や実習を行なっている。

〔優れた取組〕

栄養教諭のやりがいとは、児童生徒への深い教育的愛情を注ぎながら、食事の重要性や心身の健康、食品を選択する能力などの望ましい食習慣を形成し、健康で豊かな人生を送ることのできる資質・能力を育成するところにある。また、校内の食育推進に向け教職員がチーム学校の一員として協働的に取り組んだり保護者や地域の生産者と連携したりすることができるように食育のコーディネーター的な役割を果たすことでもある。このような、栄養教諭のやりがいについても教職課程の学修や実習において育成することができている。

〔改善の方向性・課題〕

教職に関する授業や実習において、栄養教諭へのキャリア発達を促していることが中心であるが、各授業や実習において個々に行なっている現状から、系統的にキャリア支援を行うようなカリキュラムの見直しも必要である。

＜根拠となる資料＞

各教科、実習のシラバス

オープンキャンパス時説明資料

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

(1) 食物栄養学部

〔現状〕

本学部の教職課程は、栄養教諭として最低限必要な知識と技能を身につけさせるだけでなく、建学の精神に基づき「勇気・親和・愛・知性」という四つの徳目を育てながら、やがてそれらを調和させ己をむなしくして社会に奉仕する人間に成長させるという二つの教

育的要請をもっている。そこで、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を次の通り定めている。

- 1 建学の精神である「勇気、親和、愛、知性」の調和のとれた人間性の実現を目指して、教科教育のみならず、様々な実習教育や多様な行事教育を取り入れる。
- 2 基礎教養科目では、「食の番人」的役割を果たす管理栄養士が備えるべき教養と知性、専門教育科目の学習に必要な基礎知識の修得を図る。
- 3 専門教育科目では、栄養士に必要な知識と技能の修得を主眼としている専門教育科目は管理栄養士国家試験受験資格の取得に必要な「管理栄養士基本科目」とその他の専門科目群から構成されている。
- 4 管理栄養士基本科目では、食指導、食療法、食育などの専門知識と技能の体系的な修得を図る。
- 5 その他の専門科目では、地域住民の健康生活と福祉の向上を目指し、食とリハビリテーション、食と運動、食と薬などの関連性について理解を深める。
- 6 教職に関する専門教育科目では、栄養教諭一種免許状の取得を目指すとともに、次世代の担い手である子供たちの食生活と健康を守るために必要な知識と技術を修得する。

これらの方針に基づき編成された教職課程カリキュラムは、学生便覧やウェブサイト上の情報公開欄に「単位履修表」や「カリキュラムマップ」として具体的な教育課程を明示している。そして、「教職課程履修の手引き」並びに「栄養教育実習実施要項」を毎年改定し、学生の指導に生かしている。

これらの課程の履修や成績評価については「学生便覧」において履修規程や成績考査規程が規定されている。単位認定や課程編成においては教務委員会並びに教職課程委員会が、各教科担当や関連部署、学部学科から提起された問題を審議・検証している。加えて、カリキュラム編成に際しては、北九州地区大学教育実連絡協議会に参加して意見交換を行い、それらを参考にしている。

1 年間における取得単位数の上限についてはカリキュラムマップに則り適切な履修が行われるよう CAP 制を設けており、上限を 48 単位と定めている（履修規程第 6 条）。ただし、教職に関する専門教育科目については登録単位数の上限から除くものとしている。

またシラバスには学習内容、事前事後の学習内容、テキスト・参考図書、受講上のアドバイスおよび成績評価の方法が記載され、学生個々の履修の助けとなるように設計されている。シラバスはウェブサイト上の情報公開欄で公開され誰でも閲覧可能な状態であり、外部の検証にも耐えうる内容となっている。

〔優れた取組〕

栄養教諭の教職課程は、管理栄養士養成課程のカリキュラムを基盤に編成されている。そのため、教職に関する専門教育科目以外に、栄養教諭と関連が深い科目が管理栄養士養成課程に多く開講されており、それが本学部の栄養教諭養成の長所・特色となっている。

まずは教職課程の基礎資格として「コンピュタリテラシーⅠ・Ⅱ」が教免必修として 1 年次が開講されているが、本学部では「栄養情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」が卒業必修科目として 2 年次が開講されており、教職課程の学生は 2 年間かけて ICT について学んでいる。そ

のため本学の卒業生はコンピューターに強いとの評価を外部からも得ているところであるが、さらに本年度から食環境データサイエンス学科の開設とともに、選択科目であるが、「AI・データサイエンス入門」、「AI・データサイエンス基礎Ⅰ・Ⅱ」が開講されている。次に調理実習関連科目が他大学より多いことが特色として挙げられる。このことは学生の調理技術の向上に大きく貢献しており、家庭科の授業の際にも、それは生かされている。さらに本学部には災害支援を経験した教員が多数いるため、それによって得られた知見を学生に伝え、災害支援活動の実際についても学んでいる。また本学の附属農園で農作物を育てる体験もでき、生産者の視点を学ぶことができる。

教職に関する専門教育科目では、演習科目だけでなくほとんどの講義科目でアクティブ・ラーニングが行われている。グループワーク、グループ討論、ケース・スタディ、プレゼンテーション、ブレインストーミング、ロールプレイングが頻繁に行われている。食に関する指導の指導案や授業の学習指導案を作成し、模擬指導や模擬授業後に省察を行い、さらなる改善に取り組んでいる。また予防的生徒指導として構成的エンカウンターグループ、アングーマネジメント、アサーショントレーニング、ソーシャルスキルトレーニングも体験的に学ぶことができる。

〔改善の方向性・課題〕

本学部は管理栄養士養成課程であり、それと同時に教職課程を履修することは学生に物理的・精神的な負担をかけている。教職課程の科目は1限または5限に開講されることが多く、平日は1限から5限まで時間割が詰まっている学生もいる。学生の過重負担にならないよう、管理栄養士養成課程のカリキュラムのスリム化を目指すと共に、教職に関する専門教育科目の内容の充実化を図っていきたい。

本年度より電子黒板が導入されたが、デジタル教科書やタブレット等のICTの活用はなされていないため、今後導入できるよう検討を重ねていきたい。

＜根拠となる資料＞

学生便覧

本学ホームページ

シラバス

教職課程履修の手引き

栄養教育実習要領

（2）こども教育学部

〔現状〕

本学部では小学校教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状を取得することができる。

具体的には、幼稚園教諭一種免許状を取得するためには、基礎資格として学士の学位を有するとともに、「教科及び教職に関する科目」51単位以上のほか本学が定める必修科目を修得し、「教員として最小限必要な資質能力を持つ者」として認定される必要がある。

小学校教諭一種免許状を取得するためには、基礎資格として学士の学位を有するとともに、「教科及び教職に関する科目」59単位以上のほか本学が定める必修科目を修得し、「教員として最小限必要な資質能力を持つ者」として認定される必要がある。

特別支援学校教諭一種免許状を取得するためには、基礎資格として学士の学位並びに本学では小学校教諭一種免許状を有することが求められます。その上で、「特別支援教育に関する科目」26単位以上のほか本学が定める必修科目を修得し、「教員として最小限必要な資質能力を持つ者」として認定される必要がある。

また、これらの学修を基盤に教育実習を意図的・計画的に実施しなければならない。教師は、教育に関する専門的な理論を実践に適用し、かつ、実践から理論を創造する専門的な能力を必要とする。したがって、教育を研究し教職に携わることを志す学生は、大学で習得した諸学問の成果を、実践的経験を通して主体的に再構成し、理論と実践を統一することができるよう、たえず努力しなければならない。このようなことは、大学における教科教育、教職専門に関する講義や演習でも考慮されているが、より直接的に、集中的な効果をねらって教育実習という場が設定されている。つまり教育実習は、教員養成のカリキュラムの中に設けられた教育現場における体験的実習の機会である。諸学問が理論的原理的過程であるのに対して、教育実習は教職の専門性を支え、その重要な契機をなす一種の体験的課程である。

具体的には、4年間で以下の実習を行う。

- ・体験実習

体験実習は一年次の夏季休業期間に行う。北九州市内の小学校、本学附属幼稚園に出向き、授業・保育や学校・園行事に参加して現場の教員の手伝いを行ったりこどもと交流したりする。そのことによって、教員の役割を理解したり、こどもとの接し方を身につけたりすることで教えることへの関心・意欲、課題意識を高める。

- ・基礎実習

教育実習を受けるためには、二年次後期にこの基礎実習を取らなければならない。基礎実習の目的は「学生が各教科を中心にして、授業（幼稚園においては保育）を構想していく力」を身につけることである。大学における教科教育研究と基礎実習とが、教育実習に臨む際の二大支柱になる。専門教科で積み重ねてきた学修と教職に関して、さまざまな領域・観点から学んできたことが消化されて、自ら何のために、何をどう教えるか、そして授業した結果をどう評価して、次の計画を立てるかを明確にする事に生かされる。

- ・教育実習

- ①大学における教育実習事前指導では、1・2年の教科専門科目・指導法において養った教材把握力、2年後期に基礎実習において培った授業構想力を基盤にして、三年次の9月、10月の教育実習の具体的な態様と、その際にどういうことに留意すべきかを学び、それまでに各教科の授業力をどのようにつけておくべきか、その自覚を促す。
- ②協力校、附属幼稚園における教育実習事前指導では実際に実習で扱う教科・教材を決め、担当時間を定め、種々の準備を開始する。
- ③事後指導は、悪戦苦闘した教育実習を見つめ直し、冷静に自らの努力と実力を診断して、残された大学時代に何をすべきかを見極める機会である。

・インターンシップ実習

インターンシップ実習は学校現場での教師の手伝いを通して、教育的実践力を高めることを目的にしている。教育実習のように授業を中心とはせず、ティーチング・アシスタントや教員の授業準備の補助などとして、教育に関わる立場に身を置くことによって、実質的に教員としてのノウハウを会得してもらおうとするものである。

〔優れた取組〕

現段階では一期生が近隣の小学校と附属幼稚園で体験実習を行った。わずか3日間の実習であったが教員としてどのような仕事をするのか、どのようにこどもと関われば良いのかが見えてきた。

〔改善の方向性・課題〕

一期生は比較的少人数であったが、今後入学定員充足率を向上させていくにつれ実習場所の確保が難しい状況である。就職先が小学校なのか特別支援学校なのか、それとも幼稚園なのか保育園なのか、一人ひとりの進路希望を把握しながら実習校、園との連携を深めていきたい。

<根拠となる資料>

学生便覧

本学ホームページ

シラバス

教職課程履修の手引き

教育実習の手引き

(3) 保育学科

〔現状〕

本学科の教育目的は、建学の精神「筑紫の心」を基礎とし、人間形成の最も大切な時期である幼児期を担い得る質の高い保育者を養成することであり、それらは教職課程における教育理念にも反映されている。このため、実務家教員を重視していることは既述の通りである。

本学科は幼稚園教諭（及び保育士）の養成を主たる目的とした学科であるため、教職課程科目も卒業要件に含まれており、資格取得に関する科目、学長が認めた科目を除き、半期 24 単位、年間 48 単位を履修登録の上限単位数とするキャップ制を設けている。なお、幼稚園教諭二種免許状の取得にあたっては、「一般教育科目」8 単位以上、「英語Ⅰ・Ⅱ」2 単位以上、「スポーツ健康科学Ⅰ・Ⅱ」2 単位以上、「専門教育科目」50 単位以上の計 62 単位以上の取得が条件となっている。

教職課程のシラバス作成については、コアカリキュラムに対応することが求められており、作成時からその指導がなされている。シラバスを作成する際には、教務部教務課から

科目担当者へシラバス作成のガイドラインを提示し、それを参照して「授業形態」、「授業の概要と方法」、「授業の達成目標」、「授業計画」、「準備学習の具体的な内容及び必要時間」、「評価方法」、「評価基準」、「使用テキスト」、「参考書又は参考資料等」 「受講に際しての注意点・課題に対するフィードバックについて」、「担当教員の連絡先等」の項目により作成し、教職課程に求められる基準を満たすよう周知徹底を図っている。

指定保育士養成施設としての必修科目と教職課程における必修科目の乖離や重複が無いよう教育課程の編成にあたって留意している。加えて、その教育課程の編成に際しては、北九州地区大学教育実習連絡協議会への参加、本学の教職課程委員会での意見交換を行い、実習指導校、つまり将来の就職先のニーズや現場の動向等を可能な限り学生指導に役立てている。

ICT 機器の活用については、保育・教職実践演習（幼稚園）や教育方法論において ICT の活用方法を学ぶ授業を行っている。また、クラス制の特徴を生かし、ICT の活用など演習・実習科目に対しては PC はじめ必要機材の不足や学生一人一人に教員の目が行き届く体制を維持している。なお、PC 他学校設備に関しては、学生が教職員に使用を申し出ることによって利用できるようになっている。

さらに、教職に関する科目では、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れている。例えば、2 年次に履修する保育・教職実践演習（幼稚園）では役割演技（ロールプレイング）やグループ討議、事例研究、模擬授業等を取り入れている。また、そのほかにも 1 年次より、幼児体育、子どもの図画工作など多くの科目でアクティブ・ラーニングを取り入れ、学生同士で意見を交換し合ったり、学生自身が考えたことを実際に行ったりすることで、より学習が深められるように工夫している。

履修カルテについては、「保育・教職実践演習（幼稚園）」において 2 年次までに作成した履修カルテを基に、履修状況を確認すると同時に、幼稚園教諭として不足している知識や技能を自覚し、その定着を図っている。これにより、教員として求められる資質能力を身に付けているか判断している。履修カルテを通して、教員として最小限必要な資質能力が不十分であるとみなされた場合は、「補完指導」を行うこととしている。

なお、教育効果をより上げるために、著名な外部講師の招聘は有効である。日程の調整等現実的には難しい面があるが、オンラインないしオンデマンド方式を活用することで柔軟な授業運営と教育効果の向上に努めている。

〔優れた取組〕

既述の通り、本学科は建学の精神「筑紫の心」を基礎とし、質の高い保育者を養成できるよう、教職課程科目のみならず一般科目においても豊かな人格の完成に努め、広い視野から社会に対応し得る健全な保育者の育成を教育目標としている。そのためにも、多くの科目でアクティブ・ラーニングを取り入れ、学生同士が意見を共有し、発表する場を設けている。また、保育・教職実践演習（幼稚園）では、2 年次までに作成した履修カルテを基に、幼稚園教諭として不足している知識や技能を自覚し、足りないところを補うためにロールプレイングや事例研究を行っている。さらには、教育方法論、保育・教職実践演習（幼稚園）において ICT 機器を使用し、これからの教育現場における情報機器の活用へ対応できる能力を身に付けられるよう工夫している。

〔取り組み上の課題〕

大学教育をめぐる様々な情勢の変化に即してカリキュラムが構成されなければならないが、教職課程もその影響を受けることは避けられない。保育学科においては、令和4年度にカリキュラム改正を行ったが、1年次後期・2年次前期は実習が始まることもあり、非常に窮屈なカリキュラムとなっている。専門教育と教職課程がともに学生の負担にならないように充実を図る必要があるが、困難を抱えた課題となっている。

また、本学科は、教育・保育実習において全学生が乳幼児と関わるため、「こども性暴力防止法」に基づく、性暴力を防ぐためのカリキュラム等の見直し、指導内容の検討が必要である。

＜根拠となる資料＞

本学ホームページ

学生便覧

教職履修カルテ

シラバス作成のガイドライン、シラバス

（4）食物栄養学科

〔現状〕

栄養教諭二種免許状を取得するための基礎科目と教職の科目は以下に示す通りである。これらの科目の基本的な理念は、前述した建学の精神である勇気・親和・愛・知性の「筑紫の心」である。

1 基礎資格

- ・一般教育科目（8単位以上）※日本国憲法（2単位）情報処理学（2単位）は必修
- ・英語Ⅰ・Ⅱ（2単位以上）
- ・スポーツ健康科学Ⅰ・Ⅱ（2単位以上）

2 教職に関する専門教育科目

（1）栄養に係る教育に関する科目

- ・児童・生徒の栄養指導（2単位）

（2）教育の基礎的理解に関する科目

- ・教育原理（2単位）
- ・教職概論（1単位）
- ・教育心理学（2単位）
- ・特別支援教育概論（1単位）
- ・教育課程論（1単位）

（3）道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目

- ・道徳・総合的な学習の時間および特別活動（1単位）
- ・教育方法論（1単位）
- ・生徒指導と教育相談（2単位）

(4) 教育実践に関する科目

- ・栄養教育実習（2単位）
- ・教職実践演習（2単位）

これらの科目では、学生の主体的、対話的で深い学びとなるように、チョークアンドトークの学習からの脱却を図り、学生が自ら課題意識を持ち、互いの考えや資料と交流し、各科目の特質を捉えることができるようにしている。

さらに、2年次の栄養教育実習において食に関する指導を行うことを目標に、家庭科や体育科、学級活動(2)授業の指導案や授業で活用する教材の作成にも取り組めるようにしている。特に、食育の視点である「食事の重要性」「心身の健康」「食品を選択する能力」「感謝の心」「社会性」「食文化」に関する食に関する指導が行えるよう教科等のねらいと食育の視点との関係を十分に理解するとともに、発達の段階に応じた教材解釈ができるよう学びを深めている。実習前には、実習校で行う授業の指導案に基づいた模擬授業を行い、授業の発問や資料が、授業のねらいを達成できるものであるか全員で見直しを図っている。

教育実習においては、実習協力校（以下、協力校）との実習前打ち合わせを綿密に行い、実習担当学級の児童生徒の食に関する実態を十分に把握し、協力校の管理職や学級担任、栄養教諭との共通理解のもと授業実践ができるようにしている。この実習を通して、食に関する授業力の向上だけではなく、学校における栄養教諭の栄養の指導と管理という職務内容を実践的に学ぶことができるようにしている。実習期間中は、教員が分担して協力校を訪問し目標の達成状況を細かに観察したり実習後は、「教職実践演習」の中で、授業を中心に振り返りを行なったりしている。

〔優れた取組〕

2年次の栄養教育実習に向けた食に関する授業の教材研究や指導案作成、教材作成の取組を通して、栄養教諭や教職に対する理解を深めるとともに、教材や発問、板書や資料提示の具体的方法、食に関する授業を行う教科等の理解を深めることができている。

〔改善の方向性・課題〕

短期大学では、2年間で栄養教諭二種免許状を取得しなければならず、免許状取得のための中核的な教育活動である「栄養教育実習」までに、教職に関する科目における授業が横断的・総合的に行われることが必須である。

また、「栄養教育実習」においては、直接子どもたちと接することになるので、教育職員等による児童生徒性暴力等の防止等の観点からも、授業内容の見直しを行わなければならない。

<根拠となる資料>

教職課程履修の手引き

大学案内

本学ウェブサイトのデジタルパンフレット

シラバス

基準項目 3－2 実践的指導力育成と地域との連携

(1) 食物栄養学部

〔現状〕

教職課程においては実践的指導力を育成するために、給食時間や教科等における食に関する授業の学習指導案を作成し、模擬指導や模擬授業を行い、その後に省察を行い、さらなる改善に取り組んでいる。教職実践演習では3名の教員経験者を含む4名の指導を元に査定授業の改善に取り組んでいる。

近隣の教育委員会と幼稚園、小・中学校との連携に関しては、北九州地区教育実習連絡協議会に出席し、実習先の園長、校長と意見交換をするとともに、教育委員会とも情報共有を行っている。また、教育実習期間中は、教職科目担当教員が実習先訪問を行い、現場の先生方と意見を交換し交流を図っている。

学生が教育実習前に子どもと関わる機会については、以下の場を提供している。北九州子ども食堂ネットワークや北九州市産業経済局中央卸売市場と連携し、地域の子どもの食堂や市民センターにおける市場みらい塾料理教室に学生がボランティアとして参加できる場を設け、子どもの居場所づくりや食育に貢献している。さらに北九州ゆめみらいワーク、に学生を派遣し、地域の子どもたちに対して管理栄養士や栄養教諭の仕事の魅力を伝える活動を行っている。さらに本学附属幼稚園の園児とその保護者に対しては、学生と協働して食育活動を行っている。これらの取り組みにより、学生は子どもと交流し、児童生徒理解を深め、子どもの発達段階に応じた関わり方を実践する力を養っている。

〔優れた取組〕

北九州市内の子どもの食堂に学生がボランティアとして参加し、子どもに勉強を教えたり、一緒にレクリエーションや料理を作ったりすることで、学生が子どもと交流する機会を提供し、児童生徒理解と指導方法について学んでいることが特色として挙げられる。さらに、北九州ゆめみらいワーク、附属幼稚園での食育活動などにおいて子どもと交流し、子どもの発達段階に応じた関わり方を体験的に学んでいる。

〔改善の方向性・課題〕

学生は管理栄養士養成課程と教職課程の両方の科目を受講することにより、平日は1限目から5限目まで講義が詰まること日が多く、平日はボランティア活動が頻繁に行えない状況にある。管理栄養士養成課程の科目をスリム化し、子どもと関わるボランティア活動を単位化できないかが検討課題である。

本学では「地域連携センター」を設置し、外部からも委員をお招きして、地域で産学官の連携を深め、PBLなどの取り組みを促進している。そこで教職課程委員会も地域連携センターと協働し、実践的指導力をもった教員養成を行っていきたい。

また、こども性暴力防止法の施行に伴い、教育実習時の対応が不可欠であることから栄

養教育実習事前・事後指導の時間はもとより教育課程の授業において、指導内容を検討し、実施する予定である。

<根拠となるデータ>

学生便覧

本学ホームページ

シラバス

教職課程履修の手引き

栄養教育実習要領

北九州地区教育実習連絡協議会会議資料

(2) こども教育学部

〔現状〕

学習指導要領や教育要領には「社会に開かれた教育課程」が示され、学校や園が目指す教育を実現するためには社会との連携や協働が不可欠であることが述べられている。このような教育を実現できる教員には自ら地域や保護者と積極的に関わろうとする積極的なコミュニケーション能力が求められる。そのために、キャリア研究Ⅰ・Ⅱの学修を中心に小倉祇園太鼓の振興に努めている人々に触れ合ったり、学校や園の日常的な生活に触れる体験的な活動に参加したりすることで育成したい。具体的には、一年次に学校や園の教職員の仕事について学ぶ体験実習を行い、二年次に3年生の教育実習に向け授業をするということを学ぶ基礎実習を通して人材育成に努めていきたい。

また、学生のボランティア活動の機会を多様に設け、地域連携、地域貢献ができるようにしていきたい。具体的には、障害をもった人々との交流や発達支援センターの児童生徒との交流の機会を設定し、社会に開かれた教育課程を実現できる教員の育成に努めていきたい。

〔優れた取組〕

小学校や特別支援学校、幼稚園の教員を目指す学生の中には積極的に児童や園児と関わりたいという意識をもっている。このような学生に交流のための多様な情報を積極的に紹介するようにしている。また、北九州市の少年支援室と連絡を密にとりボランティアの機会を確保していきたい。さらには、近隣の小学校や特別支援学校、附属幼稚園で実習を通して実践的指導力が高められるように日頃から連携を密にしていきたい。

〔改善の方向性・課題〕

学生がボランティアを行ったり実践的指導力を育成したりできる場の確保が喫緊の課題である。

<根拠となる資料>

キャリア研究Ⅰシラバス

(3) 保育学科

〔現状〕

本学科では、学則第4条第2項「建学の精神に則り、幼児期という人間形成のもっとも重要な時期に寄り添える質の高い保育者養成を教育目的とする。保育者に求められる一般教養、専門的知識の修得に加え、人格を陶冶し、高度なコミュニケーション能力や応用力を養う実践的な教育を行い、以って地域の幼児教育を主導し得る人材を育成する。」に則り、保育者となるために必要な教養教育と専門教育を実施について、カリキュラム・ポリシーに明記している。また、豊かな人間性と実践力のある質の高い保育者を養成するために、キャンパス内にある認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園との連携を密にし、保育現場で役立つ実践力を身につけることができる教育課程を編成・実施している。教育課程内ではもちろんのこと、行事教育や入学後1年次5月に行われる附属幼稚園の園児との交流を積極的に行い、実践的指導力を育成する機会を設定している。

授業においては、実務家教員が保育現場の実態や最新事情を説明している。授業科目「環境」では附属幼稚園を講義の場とした授業を実施するなど、実習以外でも保育現場の現状を学ぶ機会としている。また、地域の幼稚園、保育所、小学校と本学学生との交流授業「このぼり交流会」や附属幼稚園や地域の幼稚園との体験学修「筑紫オリンピック」を実施している。本学学生が実施計画をたて、事前準備や当日の運営もすべて学生が実施することで実践力の向上に努めている。取り組みにあたっては、活動前後にICTを活用し学生が実際の現場での保育展開や園児の姿を具体的に理解する機会となっている。さらに、活動の振り返りをプレゼンテーションする際には、地域の幼稚園の園長先生を招き専門家からの助言や評価を得ることで客観的に分析する機会にもなっている。このように、授業計画にアクティブ・ラーニングやプレゼンテーション、演習を取り入れることで学生の理解度や表現力、情報収集力など可視化し評価につなげている。

「キャリア教育演習Ⅰ（初年次教育を含む）」、「キャリア教育演習Ⅱ」では、毎年、地元の私立幼稚園連盟・保育連盟の協力のもと、「幼稚園の魅力」「保育所の魅力」をテーマとした特別授業を行っている。また、卒業生や実習先の職員を招き現場の声を聴く機会を複数回計画し、保育現場に関する教育実践的な情報を提供している。学生は求められる人材の理解や自己課題と向き合うことで、卒業後の自分の進路を深くイメージし、自らの学ぶ目的や目標を再確認することにつながり、続く学修や学外実習に取り組む上での意欲や積極性を育てる職業教育として体制を確立している。

ボランティアやインターンシップについては、学生へ説明したうえでインターンシップ登録をし、学生は放課後や休日に活動している。大学は適宜、学生への活動促進、フォローアップを行い、教育実習後、実習協力園へのボランティアも積極的に行われている。また、ボランティア部には、多数の学生が入部し地域の市民センターでのイベント等のボランティアにも参加している。くわえて、子どもの健やかな成長を保証するために必要な人材を育成するため、附属幼稚園や科内にある演習室を活用し、地域社会と連携を図りながら、子育て支援を実施し社会貢献を行っている。

教育実習の協力校との連携について、特に学生の受け入れが多い北九州市の私立幼稚園は、一般社団法人北九州市私立幼稚園連盟と共同して実習を行っている。北九州市私立幼

稚園連盟等主催の「幼稚園フェア」に本学学生も多数参加しており、また、幼稚園連盟主催のイベントにも学生が多数ボランティアを行うなど地域貢献を果たしている。北九州市私立幼稚園連盟と養成校、北九州市こども家庭局との「3者意見交換会」に本学も地域貢献のため参加し教育実習の本学の状況や実習での課題等の意見交換を行っている。下関市の公立幼稚園での教育実習では、教育委員会と共同して行っている。(北九州市の公立幼稚園は令和7年3月に閉園。)

教育実習に臨む上での必要な履修要件として、1年次前期の専門科目(教職概論、教育心理学、教育原理、教育実習事前事後指導)を修得していることを教育実習の受講資格としている。また、日本国憲法と情報処理学を幼稚園必修として設定している。

〔優れた取組〕

キャンパス内にある認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園や地域の幼稚園、保育所との連携を密にし、実際の保育現場での授業や交流授業を実施するなど実践的指導力を育成する機会を設定している。また、地域の市民センターや地元の私立幼稚園連盟や保育所連盟との連携を図り、学生へ各主催のイベントのボランティアや地域の幼稚園や保育施設へのインターンシップへの活動促進を行い、地域貢献のために学生も多数参加している。

〔改善の方向性・課題〕

保育現場での実践的な授業は学生も主体的に取り組む姿が見られる。ボランティアやインターンシップへの参加も積極的ではあるが、地域の幼稚園からインターンシップの要望があっても平日は1限目から5限目まで講義がある日が多く、より多くの学生が参加することが難しい状況である。保育現場での実践的指導力育成と地域との連携強化のためにも検討課題である。

＜根拠となる資料＞

学生便覧

本学ホームページ

シラバス

教職課程履修の手引き

(4) 食物栄養学科

〔現状〕

栄養教諭の実践的指導力の育成に向け、前述したように教職科目と教育実習を関連させた横断的・総合的な授業の実施に取り組んでいる。1時間の授業を実施するためには、食に関する授業で何を教えるのか、学習指導要領で求められている主体的、対話的で深い学びとは何か、そのためにどのような学習過程が求められるのか、学習過程に即した各段階の発問や資料提示はどうあればいいのか等、授業に関する多面的な理解が求められる。このような理解を深めるためには、1年次、2年次の2年間という学びの機会を有効に活用していくことが効果的である。

また、授業では、福岡県や北九州市、福岡市等の各自治体が作成している「食育推進基本計画」や福岡県の「若い教師のための教育実践の手引き」などを活用することによって県内外の食育推進の現状や教師に求められる資質・能力等に対する理解を深めるようにしている。

さらに、福岡県内の自治体や北九州市、山口県、大分県の各自治体の教育委員会との連携を密にしながら教育実習の受け入れを依頼している。これらの教育委員会の管轄である学校等から食育の研修会や校内研修会などへの指導要請がある場合は、関係の教員が出張し協力するようにもしている。

〔優れた取組〕

栄養教育実習に対する協力校からの評価は「概ね良好」である。本学科の学生が、2 年間という短い学びでありながらも、1 時間の授業の計画を作成し、実施するという実践的指導力を身に付けていることが分かる。この実習を通して、栄養教諭になることの夢が広がり、大学の編入試験を受験し栄養教諭一種免許状を取得しようとする学生が見られたり地元の学校で教職を目指したいという意欲を高めている学生が見られたりする。

〔改善の方向性・課題〕

栄養教諭を目指す学生は、概ね真面目で主体的に学修に取り組もうとしている。中には、その目標が揺らいでしまい、学習への意欲が減退してしまう学生も見られる。これらの学生に対しては、個別に履修状況や大学生活に対しての教育相談を充実させ、学生一人ひとりが粘り強く栄養教諭二種免許を取得することができるよう、個への関わりを一層深めていく必要がある。

令和 7 年 4 月 30 日の文科省の「栄養教諭等による食に関する指導等の充実について（通知）」によると、栄養教諭は「食に関する業務に限らず、学級副担任等の役割や、各種校内委員会、学校行事、地域連携、保護者・PTA 対応、部活動指導など他の教師と同様に校務分掌を担うこと」、「学校・家庭・地域が連携して食育を推進することが重要」とされている。さらに、栄養教諭は、「学校における食育推進の要として、主に食に関する家庭や地域の連携の際に、教職員間の連絡・調整を図り、それぞれの活動を協力・支援し、学校外との渉外に努め、地域との連携事業を実施する等の役割を担うこと」が期待されており、今後、食に関する指導を行う栄養教諭の採用枠を拡大していくためにも、これからの時代に求められる食に関する授業の在り方を理解し、授業実践ができる栄養教諭の養成が求められる。

＜根拠となる資料＞

教職課程履修の手引き

シラバス

実習協力校の評価

Ⅲ 総合評価

(1) 食物栄養学部

食物栄養学部では教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み、学生の確保・育成・キャリア支援、適切な教職課程カリキュラムの3つの基準領域に関して、自己点検・評価を実施した。その結果、3つの基準領域における6つの評価項目について、いずれも適切に実施されていることが確認され、教職課程教育の目的・目標が達成されていることが明らかになった。

それぞれの項目で長所・特色が挙げられており、これらの取り組みについては今後も継続していく予定である。取り組みの課題については、管理栄養士養成課程と同時に教職課程の専門教育科目を受講する学生の負担軽減、教育実習前に子どもたちと交流する機会の確保と拡充、教員採用試験に対する組織的支援の充実化などが挙げられた。

今後はこれらの課題に取り組んでいくとともに、引き続き自己点検・評価を行い、本学部における教職課程教育の目的・目標が達成できるよう邁進していきたい。

(2) こども教育学部

こども教育学部は令和7年度入学者が25名である。これまで述べてきた教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組みや学生の確保・育成・キャリア支援、適切な教職課程カリキュラムについては取り組みが始まったばかりの段階であり、総合的に評価できる段階ではない。今後は令和7年度入学者に対する一つひとつの取り組みを通して本学部の教職課程の取り組みを自己点検・評価を行なっていきたい。

(3) 保育学科

保育学科では、教職課程委員会において建学の精神「筑紫の心」に基づいた教員像を具体化し、教職指導体制の確立と本学ならではの教員養成を目指して運営しており、さらに学科長と教職課程担当者が目的・目標を共通理解している。なお、教職課程は実務家教員を中心に行われており、互いの経験を活かしながら、学生の教職課程を支援している。事務職員・助手・副手は実習を中心とした事柄のサポートを行っており、教員はクラス担任制をとるなどして学生指導を工夫している。また、多くの科目でアクティブ・ラーニングを取り入れ、学生同士が意見を共有し、発表する場を設けている。保育・教職実践演習（幼稚園）においては、2年次までに作成した履修カルテを基に、幼稚園教諭として不足している知識や技能を自覚し、足りないところを補うためにロールプレイングや事例研究を行っている。

子どもが好きで保育学科に入学したが実習に対して不安を感じている学生に対しては、

本学のキャンパス内にある認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園（以下、附属幼稚園）との連携を密にし、インターンシップで、実習前に子どもと関わる機会を確保し、実際の保育現場で保育を実施するなど、実践的指導力を育成するように設定している。

さらに、附属幼稚園や科内にある演習室を活用し、地域社会と連携を図りながら、教員と共に学生も子育て支援を実施している。

このように、子どもの健やかな成長に必要な人材を養成するなど、教職を担うべき適切な学生の育成に積極的に取り組んでいる。

（4）食物栄養学科

食物栄養学科の教職課程は建学の精神に基づいた理論と実践の融合の場であり、教育現場で活躍できるための実践的な内容を多く取り入れた講義や演習が展開されている。

また、食物栄養学科の教職を担当する教員は、小中学校における栄養教諭としての実務経験や指導主事、管理職等の指導的立場の実績を有する実務家教員であり、実際の教育現場に即した内容で実践的な分かりやすい指導を行っている。

栄養教諭二種免許の取得において短大生は2年次に栄養教育実習を行っているが、この実習は二種免許取得であっても一種免許取得と同等の実習内容が求められ、学びの期間の短い短大生にとっては負担が大きい。

しかし、実習前に実習先の小中学校の概要把握や実習担当学級の実態把握、学習指導案作成における綿密な打合せを行うなど実習先の栄養教諭や管理職等と連携し共通理解を図り、十分な事前準備を行うことで学生の負担を軽減するとともに実習の効果を高めている。

このような事前の取組を行うことで栄養教育実習における実習先からの学生の評価は概ね良好な評価を得ており、栄養教諭になりたいと考える学生が増加傾向にある。

このことから、併設大学の3年次に編入して栄養教諭一種免許を取得したり、短大卒業後、栄養教諭の臨時講師として勤務したりする学生も増えている。

IV 『教職課程自己点検評価報告書』作成プロセス

- ・ 2025年 12月22日 教職課程委員会で検討開始。
- ・ 2026年 6月4日 令和8年度第1回教職課程委員会にて各学科原案から作成された令和7年度自己点検・評価報告書（案）の検討、確認。
- ・ 2026年 6月22日 東筑紫短期大学教授会にて報告、承認予定。
- ・ 2026年 6月29日 九州栄養福祉大学教授会にて報告、承認予定。